



G12 三越前 時 物 心 街 = **整然 PACKAGE**
 列柱 × 着物 × リズム × 柱のリズム感 = 整然 PACKAGE
 歴史的で調和のとれた街並

「The next station is, Mitsukoshi-mae.」車内のアナウンスに下車駅に間違いないよう、モニターで確認した。ドアが開いた瞬間、目に映ったのは今まで見たことのない雰囲気のあるホームだ。電車から降り辺りを見廻すと、日本の伝統的な素材で作られた柱が綺麗に並んでいる。「プラットフォームという狭い空間の中ですべてが調和されているのはとても独創的だ」と驚いた。柔らかく温かい照明は駅の威厳が強く感じられる。また、色の重なりが天井のデザインと調和し新たな伝統を奏でていることがよくわかる。待ち合わせ場所に向かい歩いていると、柱の正面に何かがあることに気が付いた。近くに行ってみると、なんと柱に着物の素材が使用されているようだ。日本という国の「和」の美しさを地下鉄の駅で感じられるとは、東京に来て驚かされたことの一つだ。その後友人との久々の再開。旧交を温める間もなく、予約してあるレストランへ向かう。その間友人に「三越」は呉服問屋から発祥したと聞き、先ほどの着物の素材を使用したインテリアが意味深いものであることを知った。また、先ほど見た駅のデザインはリズム感のある整然とした街並みをよく表しているようだ。



商業 + 歴史
PACK-AGE
 積み重ねられた時・町・物・心を大切にギフトボックスに詰め
 あらたな時代に紡ぎ伝え発展させます

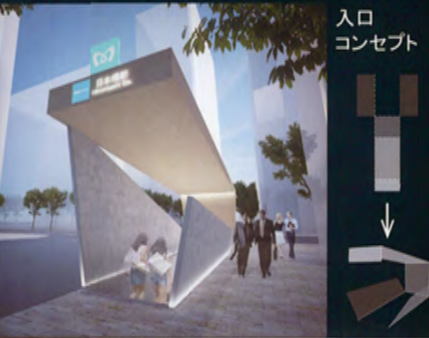
経典と未来 × 発展していく街 × 継承される物 × 温められる心
 時 × 街 × 物 × 心

本コンセプトのPACK-AGEはPARCK(商業)とAGE(歴史)を組み合わせた造語。
 周辺地域の時・町・物・心の一つのパッケージとして、日本橋周辺で長年培われた『伝統や歴史』と『近代商業地域』の架け橋とする。

光のリボン
 時・町・物・心が詰まった三つのギフトボックス『三越前』『日本橋』『京橋』。その三つの駅を銀座線という光のリボンで結び。人々に町での新たな体験への期待感を膨らませる。

町や歴史をより知り肌で感じてもらうためギフト
 町の歴史や情報が記載されたパンフレットを折り込み、まるで一つのギフトボックスのような冊子を作り、各駅の改札口に配置することにより、訪れた人々により感動的な体験を与える。

ユーザー像 - 序文
 フランス人30代後半の夫婦で3泊4日、初めての訪日旅行で東京に滞在している。今日は東京の初日。今回は初めての日本旅行なので、以前旅先で知り合った日本人の友人が東京を案内してくれることになった。彼は日本文化にとっても興味がある私たち夫婦のために和食の有名店を予約してくれた。待ち合わせは三越前駅。渋谷駅から銀座線に乗った。車内はとても明るく、興味深い広告のポスターやドアの上にあるモニターが目に入った。日本語だから細かいことは分からないが、カラフルな写真や画像など見えて飽きない。電車が動きはじめると同時に徐々に気分も高まり、初めての東京の旅に期待がふくらんだ。
 三越前駅 → 日本橋駅 → 京橋駅



G11 日本橋 時 物 心 街 = **鏡映 PACKAGE**
 橋 × 木材 × 映る × 光と反射の演出 = 鏡映 PACKAGE
 人と歴史を繋ぐ橋。水面に映る橋と街の歴史。

素晴らしい日本食を堪能した後、友人の案内で日本橋周辺を観光した。友人から日本橋の歴史を聞いてみると、近代的な都市にいても関わらず、歩くにつれ目にするものが伝統を踏襲したものが多く興味深く感じた。和菓子を買いに京橋まで移動するために日本橋から再び銀座線に乗ることにした。地下鉄の入口は石と木のよく調和されたデザインであった。友人曰く、「この辺の銀座線の駅はPack(商業)-Age(歴史)というコンセプトで統一され、街を一つのギフトボックスとして演出している」とのことである。改札口に行く友人が近くに置かれていたパンフレットをいくつか手渡してくれた。そこには駅周辺の歴史や見どころなどが記されており、訪れる人々が街に引きつけられる理由がよく分かった。そしてプラットフォームにも木材がふんだんに使用されていた。昔日本橋は木で作られており、そのアーチを再現した作りになっている。この駅は日本橋が川の水面に映るような、街の歴史を駅に反映させている。光沢の高い素材も水面を彷彿させ、歴史と人とを橋が繋ぐようにデザインとしている。電車を待つ間ベンチに座ったが、橋のアーチを模したベンチになっており、これにも驚かされた。また、駅を照らす間接照明がやさしさと重厚感のある雰囲気をかもしだしている。



G10 京橋 時 物 心 街 = **光舞 PACKAGE**
 歌舞伎 × ガス灯 × 静/動 × 石の静寂と光の動きで伝統と近代の交錯を表現

電車で乗るとすぐに京橋に到着した。電車を降りると天井のブラウンと白のシンプルでユニークなデザインが目に入った。光の柱が存在感を示す。友人曰く、古くはガス灯で夜の暗い街を照らしていたそうだ。その柔らかな灯りをイメージした光が駅を包んでいた。改札口を出ると天井のLEDライトが様々な色に変化している、これは私にも歌舞伎をイメージしていることが分かる。日本の伝統をこの様な形で感じることができるのはとても嬉しい。石の柱は地上の賑やかな雰囲気とは違い、とても静かで落ち着いた雰囲気を演出している。辺りを見廻すとスーツ姿のビジネスマンを多く見かけ、全体的によりビジネス街の雰囲気を感じる。しかしながら、歴史や伝統が最新のビジネス街にうまく溶け込んだ素晴らしい街だ。この経験を脳裏に焼き付け、フランスの友人へのギフトとすることしよう。

